

課内回覧

財政通信 NO.8

平成19年7月

平成19年度,第1回目の財政通信です。m(_ _)m

お久しぶりです。元気に仕事してますか？私は最近、血圧がドーピングなしでもOKかなって感じですよ(^o^)/(毎日測定しているわけではありませんが…でも、血統的に高いので少しは心配しています。)毎週土日は、子どもたちとサッカーしてますが、最近はその指導ばかりで、体は段々動かなくなってきてしまいました(T_T)。たまにちょっと動けば、家へ帰ってビール(^_^)体もなまり、メタボリック…なんとかにも黄信号です。皆さんも誘惑に負けないで、健康管理には気をつけてください。

さて、新しい議員の皆さんの初めての定例議会…6月議会が終わりました。わが財政家にもたくさん質問がありました。その多くが『第二次財政健全化プラン』に関わるものでした。北海道夕張市の財政破綻に端を発して、地方自治体の財政危機が相次いで表面化しているわけですから、わが家の実情が気になるのは当たり前です。

わが家では、議会と並行して平成18年度の決算統計作業も行いました。電算化によってだいぶ楽になったとはいえ、その分提出期限も早くなり、担当は毎日残業をして頑張りました。家長の注文もあって、スムーズに進んでいた作業が滞った時もありましたが、県庁でのヒアリングもパスし、無事終了です。…と思ったら変更があって一部修正する必要が…下水道事業への繰出基準の考え方が大きく変わって経常経費が大きくアップ(T_T)…比率が上昇してしまうじゃないか。…なにやってんだ。県は、国は？今頃になってぐへゝ全国どこでもやり直しのようです。結局指標だけの問題だから…とあきらめ(>_<)たらまた修正…18年度は現行どおりで可…まったくって感じです(怒)。

でも、とりあえず一息です。今後の大きな作業は、来年度の予算編成で10月からです。この合間に夏休みを(^o^)/とみんな思っているんですがなかなか取れないんです。これが_!_!

事業報告書やら、決算資料の作成やら、9月補正予算の調製やら、でやることがまだまだたくさん。…計画的に調整してください…というほかありません。

それと…財政健全化の取組みもこの期間で実行に移せるかどうかの大事な時期なんです。来年度予算に反映させるためにはここしかないんです。この時期は職員個人の目標管理…チャレンジシートの目標が達成できるかどうかに関わってきます。

家族サービスは日程を調整して…みんなで協力できるところは協力して、なんとか乗り切りましょうと…ということで打ち上げつーもんでもやるかぁ(^o^)/

またですか…と一部から非難の声が…みんな飲みたいんじゃないかと思って…と。場所もなかなか決まらず結局8 Tに\ (o) / とりあえずお疲れ！

ところで18年度決算はどうだったのか

決算といいますと、分析結果は？ということになります。

17年度は、財政の弾力性や将来負担などの指標において、県内32市中堂々とベスト5入り(ToT)。良いほうなのかって？残念ながら悪いほうからなんです(>_<)

最近では、このような財務指標を使っての財政破綻度ランキング(週刊誌ネタですけど)なども報道されており、これによるイメージダウンが市民に不安感を与えています。

現在、財源不足の解消はもとより、この財政指標についても分析を行いながら、改善を図っていくことにしています。一気には難しいけど頑張らねばb(^_-)d

ところで18年度はどうなったのか？です。17年度よりは少し改善しました。順位はまだわかりません。(19年度からは下水道事業への繰出基準が変わり、これによって経常収支比率は大きく上昇してしまうようです。ガクッ_! !)

詳しくは、8月中に「18年度龍ヶ崎市の財政状況」でお知らせする予定ですが、国からの交付税などが大きく削減されているので、多分どの自治体も厳しいはず。理論的に市税が伸びれば交付税は下がります。加えて国の改革でさらに削減されているわけですから、なかなか立ち直れない状況なんです。経常収支比率を算出する分母(経常収入)が変わらないので、分子となる経常経費を地道に切り詰めていかなければなりません。

実は、茨城県も深刻な財政面に直面しているんです。橋本知事は、「県財政は急激に悪化の一途をたどり、未曾有の危機に瀕している」と所信表明。19年度予算では600億円の財源不足。財政調整基金がすでに底をついており、職員給与カットや「禁じ手」と言われる県債管理基金からの借入れによって帳尻を合わせたようです。今後、市町村に対する県補助金を削減する方針ですが、市町村でも肩代わりができる状態ではないので住民サービスにも影響を与えそうです。

国、県による交付税や補助金の削減の影響は、小さな自治体ほど影響が大きくなります。例えば地方税で職員給与費を賄えないような町村は、全国で2割、全町村の6割強を占めているというのです。交付税削減の影響で福祉など住民サービスを縮小、廃止している自治体も多くなり、今後も削減が続けば財政力が弱い自治体では住民生活へのしわ寄せが強まるのは確実です。

平成 18 年度の決算の概要をお知らせします。

一般会計は、歳入 225 億 1,900 万円、歳出 218 億 9,500 万円。事業の繰越を除いた実質収支（繰越金です。）はとりあえず 5 億 4,100 万円で黒字です。

黒字は当然ですが、貯金も取り崩してます。「一般財源基金」と呼ばれる減債基金から 2 億円。目的基金のうち経常経費に充てている基金＝「清掃工場償還費負担金に充てている地域振興基金」から 2 億円。合わせて 4 億円。これらが実質的な不足であると私は考えています。まだまだ貯金を崩さないと運営していきませんが、皆さんとともに努力してきた結果は着実に現れています。実は 18 年度当初予算では 12 億 5,000 万円も不足していたんです。税金など収入の確保や予算執行によって、不足額を 8 億 5,000 万円減らすことができたということです。<(_)>

表 1 普通会計決算歳入歳出の状況

(単位:百万円)

項目	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
歳入額	24,658	22,713	22,380	22,492	22,519
歳出額	24,102	22,032	21,730	21,951	21,895
差引額	556	681	650	541	624
繰越額	184	82	14	29	83
実質収支	372	599	636	512	541
単年度収支	186	227	37	124	29

18 年度は、実質収支、単年度収支とも黒字でした。(^^)V

表 2 主な財政指標の状況

項目	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
財政力指数	0.739	0.744	0.749	0.755	0.772
経常収支比率	94.7%	93.8%	95.1%	95.9%	95.4%
公債費負担比率	15.7%	17.3%	17.0%	17.7%	17.7%
実質公債費比率	-	-	-	17.5%	16.8%

各指標とも 17 年度よりは改善傾向にあります。

借金返済の見通しは怎么样了の？

当市の借金返済は今がピークであって、これによる影響が大きいことも否定しません。茨城県も 20 年度に償還のピークを迎えるようであります。

しかしながら、借金の額だけを取り上げて論ずることは、『木を見て森を見ない状態』と言わざるを得ません。なぜなら、この借金は豊かな市民生活を支える「都市基盤整備」のために使われてきたものだからです。子どもたちの良好な学校環境や道路・下水道などの基盤整備。そして、たつこのアリーナで元気な汗を流せるのも、待望

の病院がオープンできたのも、新しい清掃工場が稼働できたのも、その他いろいろありますが、いずれも市民の皆さんからの要望を実現させるために使ってきたものであります。…多少言い訳がましいところがありますが(^_^)もちろん使うべきところに使い、抑えるべきところは抑えていこうという考えの下に取り組んでいます。

わがまちの自慢の一つなのですが、公共施設の耐震化率は学校等を含めて100%です。県内平均では50%にも達してないんです。借金の中にはこういうものも含まれています。…実施していない市町村は『今後の債務』という認識を持つ必要があると思いますよ…

また、すでに計画的に進めていますが、将来の借金残高を減らしていきます。毎年の新たな借金を抑えたり、利子の高いものは繰り上げて償還を行ったりして少しでも軽くしていこうと考えています。今の目標では、18年度末の602億円を10年後には半減したいと思っています。

表3 将来債務残高の推移

(単位:億円)

項目	14年度	18年度	19年度	20年度	28年度目標
地方債	489	472	462	450	268
債務負担行為	123	83	78	73	32
清掃工場負担	74	47	41	33	0
合計	686	602	581	556	300

14年度がピークでした。今後計画的に減少させ、10年後(28年度)の目標に向けて改善して行きます。

財政健全化法が成立(-_-)改善しなければならない指標も(T_T)

地方自治体の財政健全化法が15日の参院本会議で可決、成立しました。

全自治体に「実質赤字比率」や「将来負担比率」など新たな4指標の公表を義務付けされるとともに、基準を超えると「財政健全化計画」や「財政再生計画」の作成が義務付けられることとなります。20年度決算から適用されるようであり、財政状況が悪化している多くの自治体では待ったなしの財政健全化が求められます。

深刻な赤字 早い発見…4指標でチェック 悪化なら外部監査…焦点は基準づくり 今年度中に決定…というような流れです。

4つの指標と当市の状況です。

実質赤字比率…黒字であり、今後10年間は基金などの活用が可能なことから赤字にはならないと思いますし、しません。しかし、継続した健全化の取組みは必要です。

連結実質赤字比率…特別会計、一部事務組合、外郭団体ともに黒字であり今のところは心配ありません。しかし、これも継続した健全化の取組みが必要

です。

実質公債費比率・・・18年度は16.8%で前年度より低下しました。基準はクリアできると思うが、今後も継続した努力が必要です。

将来負担比率・・・算出方法が未決定。これまでの比率では、債務負担の多さから高い比率となっており、心配している。これまでの算出方法では18年度251.6%となり、前年度より6.5ポイント下がった。早急な要因分析や改善が必要です。

さあ大変なことになりました。あまり大きな声ではいえませんが・・・これからは、常にいろいろなことを考えて、財政のあらゆる面で意識していかないとダメです。サッカーじゃありませんが予測や状況判断。仕事もクリエイティブにいかないと(^_^)v
とりあえず、みんなで「第二次財政健全化プラン」を達成しましょう b(^_-)d

財政家長のひとりごと

市町村での財政問題、特に中長期の見通しに関わる問題は、考えにくい難しい問題でもあります。先の経済動向がわからないという問題もあるけど、何せ市町村は自分の財政をコントロールできる余地が少ないです。ほとんどが国でコントロールされていてしまっているんです。直接住民と関わっている市町村ではなくて、国がコントロールしているから、サービスに関わる不都合も生じているんだ・・・と思うんです。(怒)

どうせなら税源移譲はもっと大胆にやってほしいと・・・

収入面では、主要な税目の税率や課税対象が法律で定められ、地方交付税も国税や国の財政(赤字)の動向により増やしたり減らしたりと不安定。国庫補助金も国による箇所付けの動向で変動が大きいなど・・・一方支出の面でも医療や福祉分野を中心に法制度によって一定の支出が当然のように義務付けられて、自らの裁量で削減できないものばかり・・・なんです。

何年か前には、市町村が単独で実施している事業(マルフク助成・・・など)がムダだとか・・・国が指示していることだけやれば的な言い方にも聞こえたものです。

それが一転、今年になって、『頑張る地方応援プログラム』が創設されて、いかにも地方の独自策を促進しようという動きが進んできましたが、基本的にはバラマキ？それも国では交付税総額の範囲内での措置。あまり期待できないような状況です。(こんなこと聞かれたら怒られるな・・・内緒にして下さい。)

今の時代、自治体間の競争の時代とも言われています。国で義務付けした仕事だけでは住民は納得しませんし、人も移り住んできません。成長も望めません。(でも、体力・耐力のない自治体同士が競いあって何が生まれるのだろうか？って気持ちになってしまうこともあります。)

お金のないときは、『今はじっと耐える時期』と割り切って、財源ができた時にやりた

いことをやるという方法もあるかもしれませんが、何もやらないのは簡単ですが、その裁量の少ない中で知恵を絞ったり、工夫をして、求められる市民サービスに対応しなければならぬと思うんです。…当然、わがまちの体力・耐力でできるもの、身の丈に合ったサービスをすべきですが…(う～ん、矛盾に陥っている_! !)

また、苦しくなると『合併』の話題も取り上げられます。どこかの町のように、財政が行き詰まりお手上げになったから、合併しかないとする。それまでの経営の責任を放棄するようなことは好ましくなく、合併する・しないに拘わらず、財政の健全化を図ることは行政の責務であると思います。…合併というのは、新たなまちづくりや成長発展のために行われるべきであると思うし、財政問題は合併に関係なくやらなければならない課題である…(^ム^)(^ム^)

当市の財政改革もやるべきところはやってきましたが、まだまだ安定財政には遠い道のりです。住民サービスの問題が残されています。どうしても総論賛成・各論反対になってしまうんです。改革には賛成だが、自らが関係する改革は反対…というような方が多いです。聖域もやっかいです。

今後、まちがいなく『スクラップ&ビルド』が最低の原則とならざるを得ない以上、サービスのプライオリティ(優先順位)を住民周知・理解のもとに決めていくべき…です。

相互理解のうえで、自分たちでできることは自分たちでやる。我慢できるものは我慢する。そして、本当に必要なことに財源を確保する。我慢することも協働です。職員の皆さんも全庁一体となって、市として優先する施策をみんなで協力しようという気持ちで取り組む…こういうことが今必要なのでは\ (o) /

最後にお願ひ<(_ _)>

新たな取り組みとして、「ゼロ予算的事業」を推進しています。とりあえず、各課でどのくらいあるのか調査しています。ご協力を…まとまったら市民に公表します。

また、7月から8月上旬にかけて、財政健全化計画の取り組むべき具体策や検討課題事項を整理してまいります。職員の意見も聴いていこうと思いますし、何か提案があれば、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、次回また(^o^)/